

## 事前アンケートとりまとめ

### 1 令和2年度の認知症対策部会の活動について

- ・2025年問題について、全家庭に啓発できるアイテムを作る。参加を募っても若い世代が少ないので、認知症について若い世代に活動する。出来る限り多くの市民に認知症対策を知ってもらう活動。
- ・キャラバンメイトの活用に向けた研修等の開催。
- ・認知症の方とその家族の困りごとの解決がまず一番だが、認知症の方が「いきいき」と暮らしている事例を集め、一般向けに示す。
- ・認知症の方が入院する状態になったときの対応について協議。認知症のある人が入院となると受け入れを断られたり、家族に24時間の見守りを依頼したりすることがあるため。
- ・認知症の方の意思決定支援について広く周知する。
- ・認知症の専門家として数名でグループを作り、事業所に行き、スタッフとの交流（話し合い）を介護事業所から病院まで広げる。
- ・「認知症施策推進大綱」にある「共生」「予防」を実践するにあたり、専門職の方には認知症の人に対する対応力向上を目的にした介護研修会（例：ユマニチュード研修会等）を開催する。一般市民向けには、認知症を正しく理解してもらえそうな講演や予防のエクササイズの体験会、認知症の人への声かけ等の接し方や介護方法についての講習会や体験会を企画する。
- ・事例集の活用がよかった。認知症ケースでの問題点や失敗事例をケアマネジャーに出してもらい、対策や対応を検討するのもスキルアップにつながる。
- ・認知症を地域で見守っていくため、どう連携し合うのかの具体的なツール、フローチャートを作成する。

### 2 普及啓発等について

#### (1) 一般市民向け

- ・認知症に関する映画の上映会（若い世代が興味をひくようなキャストやキーワードがある映画）
- ・認知症対策部会で生駒市認知症チャンネル開設…更新期間を設け YouTube で認知症についてのテーマ別ミニ講座を流す。
- ・認知症サポーター養成講座について、これまでは自治会単位等の開催が多いが、ホ

ール等で大規模に実施してみてもどうか。

- ・認知症の方が「いきいき」と暮らしていける街づくりについて、一般の方々と考える。
- ・若い世代に認知症のことを理解してもらうために、学校やPTA、企業などへの普及啓発を行う。企業や子育て支援機関等とコラボしたイベントを開催する。
- ・認知症の正しい理解を深めるために認知症の当事者に今の気持ちを語ってもらったり、できることもたくさんあるという前向きな気持ちを語ってもらう機会を作る。できれば生駒市民で高齢の方。
- ・アルツハイマーデー（9/21）にティッシュだけでなく、認知症ケパスと一緒に配布して、認知症に関する生駒市の取り組みについての簡単な説明を行う。
- ・訪問用公用車にステッカーを貼って広報啓発する。
- ・次のようなイベントの開催。
  - ①「認知症の正しい理解と備え」がテーマの講演会。
  - ②「認知症の私が伝えたいこと」というテーマの寸劇等。
  - ③認知症の人への声かけ模擬訓練や介護教室の開催。
  - ④脳トレ「コグニサイズ」、歩く脳トレ「スクエアステップ」の体験会の開催。
  - ⑤イベント開催に合わせて、認知症の人が従事する店名「注文を間違えるカフェ」を開く。
- ・認知症の自己診断シートと、結果の読取方法等の説明を記したパンフレットを作成する。自治会のイベントや地域サロン等で活用できないか。
- ・地域住民の理解と協力（見守り）を求められるが、実際「近隣に認知症の方が住んでおり、協力したいがどのように行えばいいのか？」と分からない方がいる。実事例より地域のチームづくりがどのように行われているか、など知っていただくことで、地域の方の力を引き出す。
- ・VR体験ができれば関わり方など習得できるものは多いかと思う。また、若年性認知症の丹野智文さんの講習会の開催を希望したい。当事者の話は心に響くのでは。

## (2) 多職種連携研修会

- ・昨年同様、事例集を用いて昨年と違う事例についてグループワークを行う。
- ・認知症患者が初期～終末期までいかなる経過をたどり医療や介護がどのようにかか

わる必要があるのかについて、改めて講演していただく。

- ・認知症の方が「いきいき」と暮らしている事例を集め、それぞれの専門知識で分析し、どう今後の活動に活かせるか意見交換する。
- ・VR 認知症体験をしてもらい、その後、認知症の方が地域で生活するための取組等をグループワークで話し合う。
- ・当事者に出席してもらい、実際の事例でケアカンファを行う。
- ・①歩く脳トレ「スクエアステップ」・脳トレ「コグニサイズ」・脳活 balancer「Cog Evo」・VR 体験会
- ②ユマニチュード講習会
- ③「OiBokkeSi」オイボッケシのワークショップや講演会。
- ・地域で一人暮らしを維持している認知症の方を事例にあげ、その支援状況を（インフォーマル支援にスポットをあてて）みてはどうか。インフォーマル資源情報も支援計画には重要なものと認識し、構築する姿勢をケアマネジャーに持ってほしい。
- ・認知症安心ガイド、生駒市認知症ケアパスを活用し、認知症患者の経過や実事例より、医療や介護どのように関わる必要があるのか、学んでいただく場を持つ。

### 3 認知症賠償保険について

#### (1) 利用者さんの中に保険加入者がいますか

はい	いいえ	わからない
0人	8人	1人

#### (2) 保険料の市町村負担について

個人が全額負担すべき	市が一部負担すべき	市が全額負担すべき	その他
1人	7人	0人	1人

#### (3) 保険のほか、認知症の人の自己への対策として必要な施策（資源）

- ・認知症の診断を受けたら、自賠責加入の義務化。（相手の保障はもちろんのこと、自分を守ることになる）…使用しなければ一部返済
- ・過去の事例をまとめ、任意の保険の加入をすすめる冊子
- ・介護拒否が強い介護保険未申請の人への対応として、GPS 機能のついた機器の一部助成

- ・スマートフォンでの位置情報を分析して、いつもと違うパターンになったり危険な場所に長時間おられる場合、危険と自動判定できるソフトの開発。そして PC からスマホを通して電源がオフでも「困りごとですか？」と尋ねられるシステムができたらよい。人権の問題があるので困難かもしれない。
- ・自動ブレーキシステムの普及。
- ・街灯を明るくする。
- ・免許返納のメリット（経済的なシュミレーションなど）をわかりやすく説明したりフレット
- ・鉄道会社、バス会社、タクシー会社へ認知症サポーター講座を行い理解を促す
- ・高齢者に補助している交通費等を一部利用する
- ・金銭的問題（保険）は自治体が体制を整備するべきだが、本人の住む地域での見守りネットの強化が効果的だと感じる。「見守り→通報→保護」のシステムの強化と整備が出来れば。
- ・地域の見守りネットワークがあれば良い。例えば、民生委員が中心になり、個人情報の共有を家族が認めた認知症の方を対象に、近所の人やよく行く場所の人たちで確認や声かけを行い、安否を確認するなどできないだろうか。
- ・認知症の人の事故を事前に防ぐことができればいいが。「こども 110 番の家」が設置されているが、高齢者（認知症）110 番の家や店舗の設置。（認知症養成講座受講された方や店舗など）